



Title	大阪府松原保健所のご紹介
Author(s)	浅野, 五三男
Citation	makoto. 1975, 11, p. 5-6
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86223
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



大阪府松原保健所の紹介

大阪府松原保健所長

浅野 五三男

昭和五十年四月一日全国で、八六番目の保健所として、大阪府松原市に「大阪府松原保健所」が開設されました。

この保健所が所轄区域とする

松原市は、人口一三〇、五七三人（昭和四十九年十月一日現在）、ほぼ大阪府の中央部に位置し、大和川を隔てて大阪市をのぞみ、西は堺市、南は南河内郡美原町、東は藤井寺市、羽曳野市に接して河内平野南部の要点を占めております。

地名「松原」の由来は遠く、紀元四三八年から四四三年に在位したといわれる倭五王の一人反正天皇は身長六尺に近く、容姿美しい天皇であったと云われ、この天皇が元年冬十月ここに都を定められ、皇居の広さ四〇〇〇坪、四方に溝堀と併せて柴の垣根をめぐらした丹比柴離宮を設けられました。

その後、孝天皇が都を移すとその宮殿跡が「松生いし丹比の松原」といわれるようになってたと伝えられています。

また明治二十二年町村制の施行に際し、近隣八ヶ村を合併したとき、さきの宮殿跡附近を松原庄と呼んでいた旧称により松原と名付けられました。

当地は古くからひらけ高い文化をもっていたようで、徳川時代には各藩領、代官地の支配地となり、幾多の行政管轄の変遷を重ねて明治維新を迎えたのでありますが、明治二十二年には、松原村、天美村、布忍村、恵我村、三宅村が生れ、丹比郡に属していましたが同二十九年四月中河内郡に属し、昭和十七年七月松原村、同二十二年に天美村がそれぞれ町になりました。

昭和三十年二月一日二町三村か町村合併促進法により合併し、府下二十一番目の市として松原市の誕生をみるにいたしました。

松原保健所の設置

この保健所の設置された中で特に、住民の方々の保健所に寄せる大きな期待とその設立への努力を一番に上げることができ

ます。

即ち昭和四十四年八月市の人口が十万人を超える時にはじまり、七年の永きにわたったものでありますが、その態様を申し述べたいと思います。

昭和四十四年八月人口が十万人を超えた同年十一月、はやくも松原保健所設置委員会が発足、事務局を松原市部落解放センターにおいて、松原市PTA協議会、連合婦人会、市議会、市校長会及び教職員組合、部落解放同盟松原支部等が参加し、住民運動が展開され、住民への啓蒙は署名に連がり、その総数三五、〇〇〇名世帯数三万を超える強力なものとなりました。

一方、大阪府では昭和四十五年年度を初年度とする保健所整備三ヶ年計画が検討されていたのでありますが、翌四十六年大阪府衛生対策審議会が設けられ衛生行政の再検討が加えられる時期でもあり、また厚生省の保健所再編成（統廃合）の問題もありました。昭和四十八年度当初

予算で本格的に設置決定がなされました。

その後、石油問題に端を発する、まれにみる物価の高騰等に起因し、着工が遅延し、年度のおしせまった昭和四十九年三月二十五日よりやく着工の運びになったのであります。

他方住民運動は、工事の進捗にあわせて、保健所機能の充実、ひいては職員定数の増大をめぐって設定同様の住民運動が起り、保健運営協議会、食生活改善推進協議会及び研究同好会、衛生婦人奉仕会、精神衛生協議会等の市民団体が積極的に府に働きかけ、又府においてこのような市民の熱意をくみいれ苦しい財政事情ではあるが、昭和五十年三月二十八日竣工と同時に三七名の定数を決定したのであります。

ここに幹部職員を紹介すると所長代理は兄保健所に当る藤井寺保健所の出川喬志氏が、保健婦長は同保健所主査で更池地区担当駐在として活躍した乾死乃生氏が、衛生課長には元藤井寺保健所で勤務し地区事情に詳しい布施保健所主査森本一衛氏が、更に環境衛生担当は守口保健所主査の横田稔氏が発令された。また五月一日づつで門真保健所

浅田隆氏が総務課長として発令された。役職者を含め藤井寺保健所から十一名の職員が転動して来て六月一日づつで総計三十五名にて保健所の業務を開始した。

施設の概要

所在地 松原市田井城一―一―電話 〇七二三(三三)七一一七番

構造

鉄筋コンクリート造 地上三階地下一階（保健所部分一階）、床面積 一、一六二・五六㎡

特徴

一、住民の要求に基づいて設置された。
二、市立病院との併設。
三、保健所職員の意見を反映して設計建築された。

将来への展望

保健所では、このような住民の期待に答えるべく、四月一日設立以来、十五日という短期間で月間クリニック等の事業計画を策定し、六月一日実施として市の広報を通じ、住民への周知をはかり、一方住民のニーズを着実に把握しながら、公衆衛生活動の中核機関として、或は第一線機関の一つとして、新しい保健所を育て、行くべく所長をはじめ全職員一九となつて積極

的に取組んでおります。



大阪府松原保健所

又市民病院との併設というこ

とは、全国でもはじめての試みであり、病院施設の拡張と相俟って、厚生連で活躍された菊岡院長を迎え、スタッフの増強と市当局の強力なバックアップは、保健所と病院とのつながりに一つの課題を提供するもので、今后に大きな期待がかかります。

更に管内には、同対策事業として昭和四十八年十月に開設されました阪南中央病院（一五〇床）には全国でもめずらしい、健康管理部が設けられ、退院患

者の継続看護と生活指導等に取り組む、院内の総力を上げ地域治療の推進に積極的な歩みが続けております。又地区医師会、歯科医師会は、保健所をはじめ市等の衛生行政を強力にバックアップし地域保健の推進に積極的な姿勢をしめされております。

このような展望は保健所の将来に大きな期待と発展があたえられていることは、いうまでもありません。

